

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380476

研究課題名(和文)多様性とイノベーションのネットワーク・メカニズム

研究課題名(英文)Dynamics of Social Networks, Dissonance and Organizational Innovation

研究代表者

中野 勉(Nakano, Tsutomu)

青山学院大学・国際マネジメント研究科・教授

研究者番号：10411795

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「組織的なネットワーク」の衝突がイノベーションを生み出すと主張する「不協和(dissonance)」の理論(Stark 2009)を基礎とする。実証において、文化が制度化され、産業が変化するダイナミズムを、認知論、制度論、ネットワークとの関連から検証した結果として、ネットワークの構造と異質な文化の衝突が、オーディオ産業やアパレルなど消費者の文化的嗜好が大きな影響を持つ「クリエイティブ・インダストリー」においては、イノベーションに大きな影響を及ぼすことが示唆された。多様性の組織化をネットワークの組換えによるイノベーションと捉えることで、本研究は組織論と戦略論分野に貢献する。

研究成果の概要(英文)：This study has its foundation in the concept of “dissonance” (Stark 2009) where tension between organizational networks that have different cultures generate innovations. It empirically investigated of the industry-wide the dynamics and changing processes in relation to cognition, institution, and social networks. As a result, the study suggests that the structural properties and the dissonance of overlapping distinctive networks affect innovations. In particular, in creative industries such as the high-end audio and the ethical clothing where cultural preference and attachments of customers are important, this multi-dimensional cultural orientation has tremendous impacts on the industry dynamics. Thus this study contributes to organizational studies and strategic management from the viewpoint of diversity as recombination of networks. Finally it opens possibilities for further research studies on pragmatic valuation and markets from social networks.

研究分野：組織社会学

キーワード：dissonance ネットワーク 多様性 イノベーション 組織の文化 認知 制度論 組織の不協和

1. 研究開始当初の背景

近年企業活動のグローバル化が加速する中で、マネジメントの説明責任が強く求められている。コミュニティのメンバーとして、企業の社会的責任(CSR)への関心の高まる中、企業内の人間関係やマネジメントのステークホルダーとのコミュニケーションなど、組織に関するソーシャル・ネットワーク(社会ネットワーク)としての関係性の視点が益々重要になってきている。

日本企業が絡むM&Aや戦略的提携が増加する一方で、大企業を中心に、製造業分野などで日本企業の競争力が相対的に低下するケースも目立ち始めている。アメリカの学会を中心に10年ほど研究活動を行い、日米のビジネス・スクールで「企業戦略」、「組織論」、「グローバル・マネジメント」などの科目を担当してきた経験から、その原因のひとつは、多様化する世界の中で、文化的に異質なものを組織に取り込み、ダイバーシティ(diversity)を積極的に活用し、組織的にイノベーションを生み出そうとするマネジメントの取り組みへの消極性がある。

本研究の構想は研究代表者の数年来の研究成果から導かれたものである。研究代表者は、日米の大学院で組織とネットワークについて研究してきた。きっかけとなったのは、代表者が外部ファカルティとして活動している同大学のCenter on Organizational Innovation(COI)で、2009年及び2010年に2度にわたり短期訪問研究を行った際に、「ヘテラルキー」に関して研究を行ったことに遡る。本研究の学術的な位置づけは、ヒエラルキーと対局をなす知的多極的な組織化としての「ヘテラルキー(heterarchy)」の概念の研究の延長線上にあり、研究代表者が、David Stark教授のThe Sense of Dissonance: Accounts of Worth in Economic Life(Princeton, 2009)を日本語に翻訳することを決めたことから構想が本格化した。ソーシャル・ネットワークの視点から、多様性が生み出す組織の「不協和」が如何にイノベーションを生み出すのかについて経済社会学(economic sociology)から論じる叢書であり、その主張はアメリカのイノベーション研究者や実務家の間で高く評価され、近年ヨーロッパにも大きな広がりを見せている。翻訳出版は、2011年12月に日本語版『多様性とイノベーション 価値体系のマネジメントと組織のネットワーク・ダイナミズム』(マグローヒル/日本経済新聞社, 2011)が刊行された。その影響は組織学会が編集する『組織科学』の特集号として「起業家活動の多様性とダイナミズム」が生まれ、ビジネス・ジャーナルで企業経営の考察に応用されるなど日本でも広がりを見せた。イノベーションに関する研究では、研究代表者が2011年12月に拙著『ソーシャル・ネットワークと組織のダイナミク

ス』(有斐閣、2011)として刊行した。ネットワーク、組織と戦略の接点、ネットワークと組織のダイナミクスについて理論と実証研究を体系的に解説しながら、イノベーションに関して経済社会学の視点から経営実務への応用を促すものでもある。

2. 研究の目的

本研究は近年日本においても注目されている『多様性とイノベーション』(スターク、2011)に関連して、ソーシャル・ネットワークの視点から、理論及び実証研究を行うものである。異なる文化を持つ「組織的なネットワーク」の衝突がイノベーションを生み出すと主張する組織の「不協和(dissonance)」の理論(Stark 2009)を基礎とする。実証において、現象学からの「社会的に構成される現実」の概念を含め、文化が制度化され、産業が変化していくダイナミズムを、認知論、制度論、ネットワークとイノベーションとの関連から検証する。多様性の組織化プロセスをネットワークの組換えによるイノベーションの創出と捉えることで、「創造的な摩擦(creative friction)」のマネジメントとして、組織論と戦略論分野での貢献を目指す先端的かつ先進的な試みである。

本研究は近年日本においても注目されている『多様性とイノベーション』(スターク、2011)に関連して、ソーシャル・ネットワークの視点から、理論及び実証研究を行うものである。異なる文化を持つ「組織的なネットワーク」の衝突がイノベーションを生み出すと主張する組織の「不協和(dissonance)」の理論(Stark 2009)を基礎とする。実証において、現象学からの「社会的に構成される現実」の概念を含め、文化が制度化され、産業が変化していくダイナミズムを、認知論、制度論、ネットワークとイノベーションとの関連から検証する。多様性の組織化プロセスをネットワークの組換えによるイノベーションの創出と捉えることで、「創造的な摩擦(creative friction)」のマネジメントとして、組織論と戦略論分野での貢献を目指す先端的かつ先進的な試みである。

3. 研究の方法

本研究では、多様性の組織化とイノベーションについて、そのダイナミックな発展プロセスをネットワークの文化的な衝突と捉えるため、当初4つのフィールド(オーディオ産業、産業集積、フライ・フィッシング、総合商社における経営統合)についての文化の衝突についての調査を計画した。方法は、定量的なネットワーク分析及び定性的なフィールドワークでのインタビューを中心として、その他の文献データを使い、「不協和」(dissonance)を組織マネジメント研究の枠を超え、産業レベルにまで広げて研究する。

今回の研究の方法論については、研究代表者が2010年に学会発表を行った European Group for Organizational Studies (EGOS) のスウェーデンでの年次大会における“Organizational Networks in Flux”のセッションで、40名ほどのセッションの参加者と3日間発表とディスカッションを繰り返す中で、いくつかの関連する研究の動向をつかむことができた。また、2012年に参加した Management and Social Network のスイスでのコンファレンスでは、先端研究者と深く意見交換をしたことで実証分析への多くの示唆を得た。具体的なアプローチの方法と分析のための操作概念として、いくつかの関連する先行研究 (Jensen 2003, Padgett and Ansel 1993, White 2003) があり、本研究ではそれらを更に発展させ、多角的な構造分析として計量ネットワーク分析とネットワークが作り出す文化の「意味世界」を現象学の立場から定性的に分析する。研究期間は3年間であり、文献整理、計量及び定性データ収集、それらの分析、理論の再考を順次進め、その後研究成果の学会発表、ジャーナルへの投稿、叢書の出版を含めた公表を目指した。研究代表者による単独研究プロジェクトであり、組織的な役割の分担などはない。

4. 研究成果

本研究の成果として、ネットワークの構造とネットワークが作り出す文化の交わりとその衝突が、多くの企業を巻き込みながら産業レベルのイノベーションに大きな影響を及ぼすことが明らかとなりつつある。特に、文化的なコンテンツや消費者の文化的な嗜好が大きな影響を持つ「クリエイティブ・インダストリー」、即ち「創造的産業」においては、産業独自に形成される多面的な文化が、ネットワーク間の相互作用から制度化され、市場の構造を形成し、関係性の構造が産業の盛衰に大きなインパクトを持つことが示唆された。

リサーチ・フィールドの対象の中では、オーディオ産業の文化とネットワークについての研究の成果が最も大きい。1980年代のアナログ全盛期から、90年代以降のデジタルへの移行、携帯機器の登場、近年のPCとの融合など、レコードからCD、そしてダウンロードへと音源が移行する中で、大きな文化的な変化について現場の意見を収集してきた。中でも量販店やトップ・エンドのプロショップ、小売店などを回り、展示会やコンベンションにも多く参加し、日本や海外メーカーのトップを含めインタビューを行ってきた。そして、2010年のニューヨーク出張の際にはアメリカの動向を研究すべく、いくつかのインタビューを行った。

「ハイ・レゾ」と呼ばれるデジタル・オーディオが急速に広がりつつあり、その一方で

アナログ・レコードが一部の若者を中心に復活しつつある現状で、研究の対象が広がりつつある。ネットワーク分析を行い、その結果は2013年3月に単著論文として日本語で出版された。加えて、2013年6月のSASEの年次大会(ミラノ)で学会発表を行い、1月にはリヨン第三大学で発表を行った。また、2014年7月にはオランダ・ロッテルダムでのEGOSの年次大会、8月にはアメリカ・フィラデルフィアでのAcademy of Managementの年次大会での学会発表を行った。

2014年3月にはCenter on Organizational Innovation (COI) の外部ファカルティとして、再度ニューヨークのコロンビア大学に2週間滞在しながらDavid Stark教授と「ヘテラルキー」の概念とイノベーションのネットワーク・メカニズムについて議論を深めた。そして、2014年のフランス出張の際には、パリでフランスの研究者との意見交換を行い、ショップのインタビューを行った。また、ネットワーク分析を行い、その結果は2013年3月に単著論文として日本語で出版された。加えて、2013年6月のSASEの年次大会(ミラノ)で学会発表を行い、1月にはリヨン第三大学で発表を行った。また、2014年4月には組織学会の定例会で講演を行い、成果の一部を報告した。そして、2014年7月にはコロンビア大学よりDavid Stark教授を日本に招き、司会者及びモデレーターとして、教授の講演会を行い、教授と「ヘテラルキー」の概念とイノベーションのネットワーク・メカニズムについて議論を深めた。

2015年9月からはサバティカルに入り、創造的な産業としてのオーディオ産業については、量販店やハイファイ・オーディオ専門店、展示会やコンベンション、専門誌、評論家などを含め、日本や海外でのインタビューを行った。2015年10月のコロンビア大学、2016年3月のフランス出張の際には、ニューヨーク及びパリでのオーディオ・ショップなどでのインタビューを行い、カシオン大学で3回の研究会での発表を行った。

研究期間終了後もドイツ、デンマーク、イギリスでの研究会やヨーロッパの学会での研究発表及びフィールドワークを続けている。また、ネットワーク分析と組織・経営戦略・ソーシャル・ネットワークに関する叢書1冊として日本語で研究成果をまとめており、2016年度夏には有斐閣から経営戦略とソーシャル・デザインに関する叢書として出版予定である。今回のリサーチでは、論文や叢書としてまとめることで、その理論、方法論の斬新さと新規性から、経済社会学、組織論、経営学などの社会科学分野のみならず、ビジネスとマネジメント実務を含め、社会に成果を十分還元することができるものである。また、Editor して Routledge から Japanese Management についての編集書籍の出版を2016年に予定しているが、オーディオ産業の研究については、その中の一編と

して英語での論文を出版する予定である。

これらの研究は、市場における価値とはどのようなものであり、どのようにとらえられるのかという研究として、実践的な価値の研究 (pragmatic valuation) に発展しつつある。2015年9月からのサバティカルを利用し、欧米の中心的なリサーチセンターに滞在し、オーディオ産業やエシカルファッションにおける価値の実証研究に取り組んでいる。David Stark, Christian Bessy, Fabian Muniesa, Rorert Salais, Jens Beckertら economic sociology and sociology of markets, pragmatic valuation, economics of convention の代表的な研究者との意見交換を行う中で、研究発表を続けながら、論文の出版に向けての活動を続けている。

産業集積における中小企業の文化とネットワークについては、1997年から大規模ネットワークの分析を行っているが、東京都大田区および城南地区の企業間関係のネットワーク分析に関し、市場の問題としてネットワークが変化する中で、中小企業では世代交代が進む中で、若い経営者を中心として、今までの下請けの枠組みにとらわれない交流が盛んにおこなわれ、このような数十社程度の柔軟なネットワークは、異業種間の分業を行いながら、文化的な価値観の違いが、新たなイノベーションを喚起し、様々な製品を生み出す努力を重ねていることが広く検証された。東京都大田区の企業間関係分析に関し、「大田工業フェア」を訪問し、インタビューを行った。また、地域の産業集積から企業のCSRを含めた、ステークホルダーとのコミュニケーションなど、ソーシャル・ネットワークを考える領域が広がりつつあり、論文の構想をまとめている最中である。

総合商社のヴァリュー・チェーンのネットワーク分析を試みているが、ネットワークとイノベーションについて、その多様性と「創造的な摩擦」の意味の理論と実証を進める中で、日本のエシカルファッションに注目した。その成果は報告書としてまとめられているが、例えば、データの収集、整理、分析に多くの時間を割いており、2015年9月からのサバティカルを使い、ニューヨーク、フランス、ドイツ、デンマークの研究機関に滞在しながら、ファッションの市場について現地の研究者と意見交換する機会が多くなったことで、今後は分析を再検討し、執筆により多くの時間を使うべきと考えている。フィールドとしてジーンズの生産はオーガニック・コットンを使うなど、日本のデザイン、染色技術、縫製技術、加工など世界的なニッチ市場で高く評価されている。小さな会社が多く、コストの点から世界の認証機関から認証を取ることができないため、独自に自らのネットワークでロゴを作り、その価値を高める戦略を取っているが、前述の商品の価値評価について、プラグマティズムの立場からの検討を続けている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

単著論文 中野勉. 「日本のオーディオ産業と中小企業の連携 文化の視点から」森川信夫編. 『中小企業の企業連携』, 学文社 2013年. 69 - 106頁 査読なし

〔学会発表〕(計 8件)

Paper Presentation, “Valuation Practices in Transition: From the Analogue to the Digital High-End Audio,” *4S/EASST 2016 Conference: Science and technology by other means*. Track Title: Valuation practices at the margins, Barcelona, Spain, August 31-Sept 4, 2016 (予定)

Paper Presentation, “Pragmatic Valuation of Sound Quality in the High-end Audio: Audiophiles and Product Reviewers,” *4th Interdisciplinary Market Studies Workshop*, University of St. Andrews Business School, Scotland, June 8-10, 2016 (予定)

Paper Presentation, “An Explorative Study of Culture and Commercialization: Institutionalization of the "Ethical Fashion" Japan, Network Q: Asian Capitalism,” *27th Society for the Advancement of Socio-Economics Meeting*, London School of Economics and Political Science, London, England, July 5, 2015

Paper Presentation, “Dynamics of Identity, Institutions and Networks: A Study of the Ethical Fashion Japan,” *Lyon International Week 2015*, University of Lyon 3, Lyon, France, January 8, 2015

Presentation (also moderator/coordinator), “Networks and Culture: Mediating Art, Technology, and Market in the High-End Audio Industry,” PDW session entitled “Contemporary Issues on the Japanese Management: Changes and Challenges in the Age of Globalization,” joint meeting of *Asia Academy of Management and Japanese Association of Organizational Science* (Soshiki Gakkai), Academy of Management Annual Meetings, Philadelphia, USA, August 2, 2014

Paper Presentation, “Art, technology, and market in the high-end audio industry:

network and subculture,” Sub-theme 14: (SWG) Organizational Network Research: Organization and Renewal of Organizational Networks, *2014 EGOS Colloquium*, Rotterdam, The Netherlands, July 5, 2014

Paper Presentation, “Agents, Networks, and Innovation in the High-End Audio Industry: A Problem of Symbolic Capital,” *Lyon International Week 2014*, University of Lyon 3, Lyon, France, January 8, 2014

Paper Presentation, “Networks and Creative Friction in the High-End Audio Equipment Industry: A Problem of Symbolic Capital,” *Network F: Innovation and Technology, 25th Society for the Advancement of Socio-Economics Meeting*, Milan, Italy June 28, 2013

〔図書〕(計 2件)

単著 Nakano, Tsutomu. “The Japanese Audio Equipment Markets in Transition: From the Analogue to the Digital Culture and Technology” in Tsutomu Nakano eds. *The Japanese Firm System in Evolution: New Directions, Breaks, and Emerging Practices*. Routledge (出版予定 2016).

単著叢書 中野勉. 『ソーシャル・デザインと戦略 ネットワークからプラグマティズムへ』, 有斐閣 (出版予定 2016年夏). 290頁

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年月日 :
国内外の別 :

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 中野勉 (Nakano Tsutomu)
青山学院大学・国際マネジメント研究科・教授

研究者番号 : 10411795

(2) 研究分担者 なし
()

研究者番号 :

(3) 連携研究者
()

研究者番号 :